

明治五申年十月廿三日

西曆一千八百七十一年
第十月廿二日

英國於

論敦外務省岩倉大使同國外務省宰相グリン

ウ井ル應接記ノ内

通辨 アストン

前畧

大使

我輩此度奉スル天ノ使命ノ趣ハ則國書中ニ
有之通第一ニ聘問ノ禮ヲ修メ且從來我國ノ
情態ヲ詳ニ申陳ヘ將夕條約改正期限近キニ
アルヲ以テ貴國政府ニ即考案ヲ兼度事ニ候

但シ日本ノ變革ノ次第見込ノ處ヲ備ニ申述
候ニハ時節モ移リ可申候殊ニ者畧即兼知ノ
義トモ存候間大略申述候一体我國ハ數百年
來鎖國ノ風習ニシテ人心嚴ニ固結ノ處二十
年來外國ト往來候ヨリ近年迄ノ間容易ナラ
サル形勢ニテ禍乱有之候未迄ク

天皇陛下一新天下ヲ一統シ人心初メテ方向
ヲ定メ其後數百ノ大藩ヲ廢シ郡縣ノ体裁ヲ
立候此義ハ尤容易ナラサル事業ノ處幸ニシ
テ一ノ砲声ヲ不聞双ニ血又ラスレテ天下愈

平治イタレ候故ニ此上ハ偏ニ外國交際ヲ重
シ前条申陳候趣旨ヲ以我輩ヲ差立候義ニ即
座候

宰相

近年一般ニ日本ノ開化ニ進ヲ兼リ甚之ヲ悦
旦當國ニ辨務使被差置候美事ト存候

大

我國モ精々開化ノ地位ニ至ラント尽カスレ
トモ未タ十分ナラス候

宰

近年改革以來日本ニカヲ尽セシ有名ノ人々
天皇陛下ヨリ使節トシテ當國ニ被遣候了滿
税ニ存候扱条約ハ日本ニタイテ即整被成候
ヤ於當國被成候カ

大

唯今申入候通於日本之ヲ整候積ニ候

宰

条約改定ニ付テハ別段申質談ノケ条ハ即座
候カ

大

右ハ我輩ヨリ申上候丁ハ別段無之國書中ニ
有之通貴國政府ノ即考案ヲ兼度候

宰

我聞ク天ニハ宗旨ノ一糸ニ付テ何カ六ヶ敷
趣近年各國政府ハ一般ニ宗旨ノ禁ヲ自由ニ
スルヲ國ノタメニ益アル美事トイタシ候

大

此ヶ条ニツイテハ後日尚即談ニ可申候

明治五申年十月廿七日

西曆一千八百七十二年
十一月廿七日

英國

於論敦外務省岩倉大使山口副使寺島大辨務
使外務尚書クラニウ井ル候ソルハルリーパー
クス應接記ノ存

筆記

福地一等書記

通辨

アストン

尚書

過日ノ即談判ニ從ヘハ条約改正ノ評議ハ日
本ニテ即取行ヒ可被成趣右ハ其通りニテ可
然拙者ノ考案見込即兼知被成度トノ丁ニ候